

レジメンcode:	C85-38	備考
適応がん種:	悪性リンパ腫	
レジメン名:	Gazyva維持療法	
間隔:	2ヶ月	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与方法	投与日
	ガザイバ	1000	mg/body	点滴[*1]	d1

G-Bendamustine6サイクル投与後(最終投与日)から2ヶ月後(56日±14日)に開始し、病勢進行が認められるまで2ヶ月(56日±14日)毎にガザイバ単独療法における維持療法を最大2年間にわたって継続投与する。

【内服】

day1

1) カロナール	500mg	2錠
	内服	ガザイバ投与30分～60分前

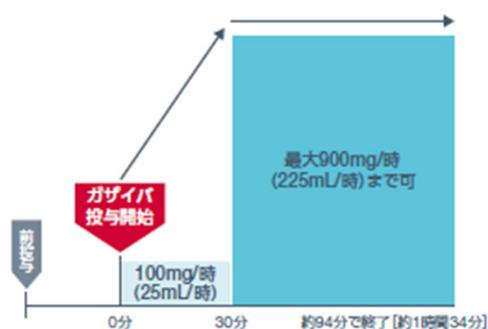
【注射】

day1

1) デキサート	6.6mg	3 V
ポララミン	5mg	1 A
生食	50ml	1本
	主管①	点滴 15分 内服前投薬確認
2) 生食	50ml	1本
	主管②	点滴 1時間
3) ガザイバ		1000 mg/body インラインフィルター必須
生食	210ml	
	主管③	点滴 [*1]25ml/hr → 30分後 225ml/hrへ速度を上げる。 (前回の投与でGrade3以上のinfusion reactionが発現しなかった場合)
4) 生食	50ml	1本

フラッシュ

〈所要時間 約3時間30分〉



()は希釈後の点滴粉注量

前回の投与でGrade 3のinfusion reactionが発現した場合は、初回投与時の速度で行ってください。

*抗ヒスタミン薬、解熱鎮痛剤、副腎皮質ホルモン等の投与を行った患者においても、重篤なinfusion reactionが発現したとの報告がある。

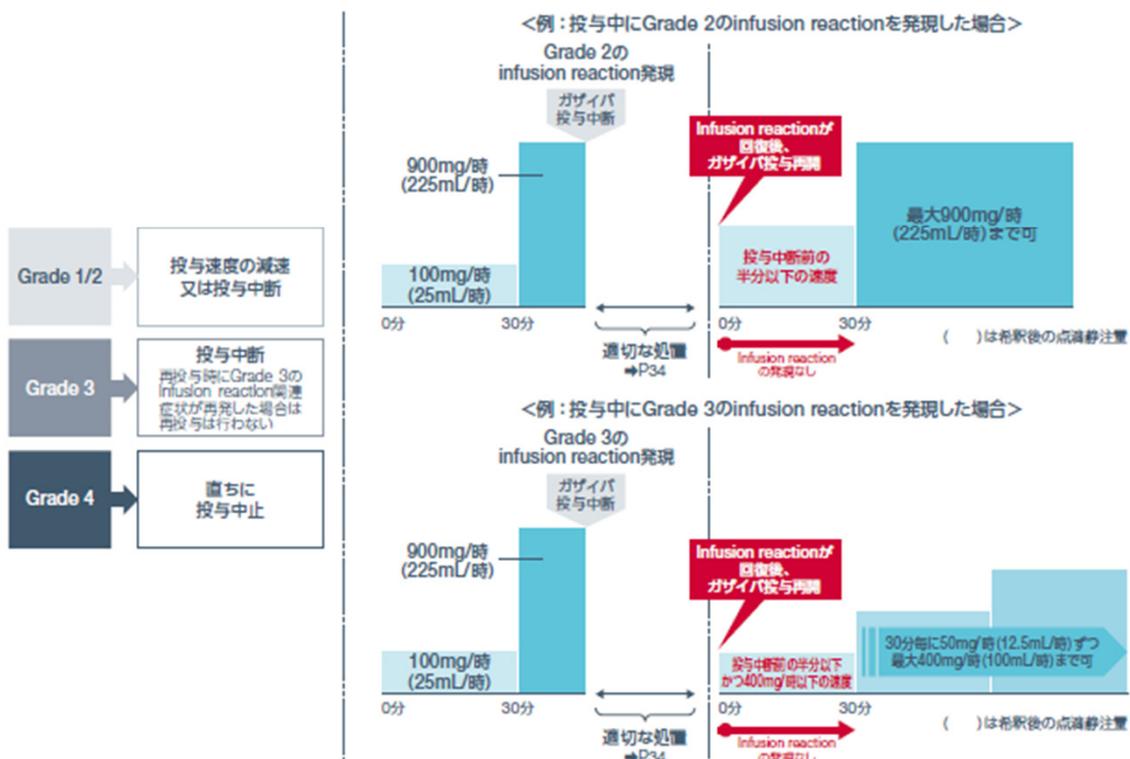
*腫瘍崩壊症候群の発現リスクが高いと考えられる患者に対しては、補液、フェブリクの投与を考慮する。

■ Infusion reaction発現による中断後、投与再開時の投与速度

投与時間短縮投与方法*で投与していた場合

Grade2以下のinfusion reactionが発現した場合は、infusion reactionが回復後、投与中断前の半分以下の速度で投与を再開します。その後infusion reactionが認められない場合は、最大900mg/時(225mL/時)まで上げることができます。

また、Grade 3のinfusion reactionが発現した場合は、infusion reactionが回復後、投与中断前の半分以下かつ400mg/時(100mL/時)以下の速度で投与を再開します。その後infusion reactionが認められない場合は、30分毎に50mg/時(12.5mL/時)ずつ最大400mg/時(100mL/時)まで投与速度を上げることができます。なお、次回投与は、初回投与時の速度で行ってください。



GradeはNCI-CTCAE v4.0に準じる。

